

1975-3-12

東京蜘蛛談話会

談話会員の便りから、近況をお知らせします。

東邦大学理学部の近藤昭夫氏は、~~入試~~入試のため、2月21・22・23日の2泊3日、大学に軟禁状態にされたとの由。入学試験に関係のあった方は、多少とも大変な目にあわれたことと思います。

千葉大に学んでおられた高林桂子氏は、4月から、豊田(東京・日野市)の特殊農薬研究所に通われるそうです。萱嶋先生の近くに通われる訳で、いろいろ連絡をとるのに便利になるでしょう。

大河内哲二氏より、以下のような便りがありました：

「前略」仕事が一区切りするまでは、その方に力を注ごうなどと考えていたら、いつか五年もたってしまいました。最近は何もほとんど見なくなってしまい、これから戻るのは大変だろうと思います。会とのつながりとして通信を楽しみに読ませてもらっています。—後略—

中学校の教員に与っては、教室は、片手間ではお来ないこと加つづくと思われ、クモを見ることのできる人は、みることのお来ない人の分までカンバリましょう。

山ノ守氏より、神奈川県のケンカクモホントの正体の連絡がありました。今年の春から夏にかけて、その一度確認してから、発表したいといわれていますので、簡単に紹介しておくだけにします。従来は、ネコハエトリといわれてきましたが、山ノ守氏は、ホントには、カラスハエトリもいることをみとめました。ケンカをさせられるクモなら、それが、ハエトリクモなら、ホントとほぼわかっていいでしょう。以前、植村利夫先生が、ホントは、ネコハエトリと、ランペルトハエトリであることを知り、発表されましたが、ランペルト

ハエトリは、マミジロハエトリであるので、これでは種類の容疑者がたまたまわけである。勿論、実犯者たちかもしれない。(以上、松本)

採集と飼育 第37巻1号、1-4ページに、市場利哉氏が「佐賀県でクモを採集したW・デーニッツ」と題する報文を書かれています。Dönitzは、例のデーニッツで、日本に医学教官として招かれ、日光・富士・箱根・房総・函館などにも採集旅行をしている由。Bösenberg und Strand (1906)のJapanische SpinnenにDönitzの採集したクモもとにいた記載が多くある。とほい之、付録のDönitzとStrandによる記載の多くは、ad.int. (暫定的な意)を付した記載・学名で、どちらかといえは、混乱のもとになっているものが多いと見える。

市場氏は報文中、Dönitzが佐賀滞在中に行った採集地を下記のように推理している。詳しくは、原文をみられたい。下記括弧内は現在の地名。Saga (佐賀県佐賀市), Kampira (佐賀市金立町大門(Daimon)), Kawakami (佐賀郡大和町川上), Yunohama oder Junohama (佐賀群富士町湯の原(Yunoharu)), Ogi Kiyomidzu (小城郡小城町清水(Kiyomizu)), Korats oder Karatsu (唐津市(Karatsu)), Yobuko (東松浦郡呼子町), Takewo oder Takiwo (武雄市武雄町), Nagsaki (長崎県長崎市), Unzen (南高松郡小浜町雲仙), Yanoyawa (福岡県柳川市), Himeshima (糸島郡壱島)

(以上、松中)

1975年1月26日、日本テレビで放映した、「アマゾンリ流域・裸族マノモ探検・激流の秘境150日③」で、クモが出てきました。ヤマモの人達が、地中にいるクモを、木のヤベルヤ刀で掘(くぐって)り出して、草やつるで、からめと、ている場面、けしきでつかまないと、草やつるも、5.0cmぐらいあり、体からは毒がたまに毒がたまります。その毒を、たき火の中に入れて、焼いてしまいます。焼けるときに、つよい臭いが出る(毒)屋外で、焼いていました。どの(といて)程度かわかりませんが、焼けると、脚をちぎって、各々の節をたてに刺して、脚の筋肉をたべていました。腹には毒があるといって、たべないのだ(と)いっていました。クモは黒紫色で、毛深く、脚を広げるとかなり大きいものでした。アマゾンリ流域には、上記のようなクモ(いわゆるトリクモのおんなクモは) Trechona, Xenesthis, Megaphobema, Pamphobeteus, Lasiodora, Theraphosa, Acanthoscurria, Avicularia などがいますが、画面に出て来た、たべられたクモが、何というクモかはわかりませんでした。トリクモの料理は、各地にありますか、腹部に毒がある(と)いって食べないのは、おもしろいことです。腹部の毒の真偽も、たしかめた(と)いことです。(5)

ホリドールから発売された、ミソージャクソンのレコード「腹のトリコ」のジャケットは、クモの茶間をバックに、人を3人(?)アレンジしたものです。いろいろあって、おもしろいですね。レコードファンは、どうして、これかた(と)いって、買わ(と)いって、本人も、レコード屋で、石(と)いって、買いません(と)いっていました。

以下のマンガは、出所不明のため、著作権法違反(の掲載)犯のおそれがあります。不向にして下さい。宜しく。



1月9日放映の「蜘蛛の王国」で、「大雪山の動物たち」というのがありました。戸川幸夫氏が解説して、ヒグマ・ナキウサギ・エゾオシカの生態をみせてくれました。その中で、クモも数カットでできました。スーパーポーズには、キバナオニクモ・ダイセツコモリクモ・マシマダラコモリクモの名がのりきました。前記2者の名はよくわかりますが、アシマダラコモリクモというのは、ききなれません。A *Lopocosa striatipes* (C. Koch, 1837) というクモのようです。解説もちゃんとしていたのですね。うれしかったのですが、「コモリクモが以前、ドククモとっていたのだから、2,3年前のクモ学会で、毒も強くないのに、かわいそうだ」といって、コモリクモにかえたのだ」といっていましたが、よく知っているには、驚きました。とはいうものの、このような解説がつくと、ドククモの名はなかなか消えないなと思いました。(5M)

NEW BOOK

ハ木沼健夫著

クモの観察と研究

—入門から専門への橋渡し—

付. 日本産主要クモ類一覽表.

ニューサイエンス社刊. グリーンアックス13.
12.7×18.2cm, 103pp. 63 photos,
7 figs., 550円.

I. 基本篇 (クモはどんな動物か, 採集標本観察, 写真のヒト示, 飼育, 名の調べ)

II. 研究篇 (生態の研究, 環境単位の研究, 地域の fauna の調査, 分類の研究)

III. おもな観察研究題目の例 (網に関して, 空中飛行, ハエトリクモの求食行動と威嚇行動, コモリクモの母性愛, 反射と反射の消失, 天敵としてのクモの研究)

IV 付録 (学名と学名の読み方, 日本のおもなクモ類種名一覽表, 参考書, 蜘蛛研究団体)

談話会通信 No.3 の3ページに、バックナンバーとコピーについて紹介いたしました。大河内哲二・小野展嗣の両氏より、KISHIDAIA No.11 分の別冊刷を50部、ご寄贈いただきました。これで、No.11は、コピーではなく、本物がお渡し出来るようになりました。これには表紙がありません。しかし、コピーよりは、はるかに、値打ちがあることと思います。両氏に、厚くお礼申し上げます。

なお、コピーの実際について、訂正がありますので、前号と重複することになりますか、バックナンバーについて、再度掲載しておきます。

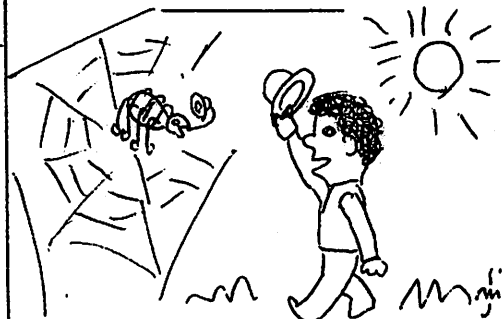
No. 3, 5, 6, 7	各 50円
No. 9, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 19, 22, 25,	各 70円.
Nos. 16/17, 20/21, 23/24	各 100円.
Nos. 26/28	250円
Nos. 29/32	400円
No. 33, 34, 35, 36, 37, 38	各 200円.

以上は、在庫バックナンバーです。送料は別です。

KISHIDAIA バックナンバー
欠号 コピー (代金)

No. 1 (45円), No. 2 (45円)
No. 4 (30円), No. 8 (60円)
No. 10 (45円)

(コピー代金は実際ですの?、談話会会計とは別となります。)



東京蜘蛛談話会蔵書目録

(コピーに応じます。申込みは事務局へ)

- No. 11. 東京蜘蛛学会 (1972) ATYPUS, No. 59, 32 pp.
ミカドヤチグモ (*Coelotes micado*) の正体, 埼玉県におけるコシブトジカバチモドキおよびマダラジカバチモドキの餌, 大台が原山系大杉谷のヤステ類, ムカデのイメージ, 静岡県産の真正蜘蛛類, ハエトリグモの誇示行動 (1) - アガンソンハエトリの雄の threat display, 解決した疑問蜘蛛・問題蜘蛛, 未だ知らしむカデヒヤステ, 東京蜘蛛学会第4回大会・総会, キムウグモの分布に関する補説, 地方たより - 中部クモ類懇談会 -, Library 学会図書,
12. 築地満男 (1972) キムウグモの生息分布について. ATYPUS, (58): 28-35
13. 松本誠治 (1970) 磐梯高原のクモ. 群生研究会誌, (6): 19-22
14. 井伊伸夫 (1971) アガンソンハエトリの雄の行動. 関西自然科学, (23): 55-57
15. 松本誠治 (1967) 千葉県産真正蜘蛛類目録 (才1報). 千葉県動物誌基礎資料, (6): 67-77
16. 新海栄一 (1971) クモの名称 (IV) - 昔の名称・今の名称 -. KISHIDAIA (23/24): 1-10
17. 新海栄一 (1965) クモの研究. カタツムリ (海城高校生物部報), (15): 20-51
18. 千国安之輔 (1972) 上佐生れ信州育ちのスズミグモの生態. ATYPUS, (58): 16-27
19. 八木沼健夫 (1972) メカネヤチグモとヤマヤチグモ. ATYPUS, (58): 45-47
20. 大野正男・八木沼健夫 (1968) 新島・式根島・神津島の真正蜘蛛類. 東洋大学紀要・教養課程篇 (自然科学), (10): 17-29
21. 八木沼健夫 (1971) 大雪山のクモ (2). ATYPUS, (57): 9-12
22. 松本誠治・新海栄一編 (1971) ATYPUS 文献目録 (1) - ハエトリグモ科 -. ATYPUS, (56): 9-13
23. 学醫院生物部 (1972) Biologia, No. 10, pp. 33 pp.
血洗の池を研究して (プランクトン, 院内の昆虫, 院内の鳥, もつごとよしのほり), 合宿の記録 (地図, 男子部合宿報告, 女子部合宿報告, 日光のトンボ類の賞之書き, 奥日光の真正蜘蛛類雑感, 奥日光の昆虫, 奥日光高山植物, 戦場ヶ原と血洗いの池), 昆虫の飛行について, OB会に「より - 自然の中で -, 71年度活動報告,
24. 河内考古学研究会 (1968) 河内考古学, 才2号, 20 pp.
河内の土器, コーラ・トコトコ・石室と墳墓の研究 (その2), 横穴式石室に伴う土器片の一資料, 小若江遺跡の出土遺物クモの圧痕と土器片, 韓国訪問記,
25. 大利益久 (1971) クモの生態. 日本医学新報, (2524): 72-

クモの記事の収集... 資料として大切なものです。別刷, コピー...

用語解説 — 4 —

(中山書店から刊行された谷津・内田:
動物分類名辞典 pp.1133-1158から
の抜粋です)

Jordanon

ジョルダン種。いわゆる種より
小さいが、他からはっきりした差を示
す要素的な種。

Allopecies

Allopecies (独)。一つの種
の構成分子である種。狭義の半
種で、種分化の面からでなく、分類
階級として見たもの (Amadon, 1966).
cf. semispecies

Semispecies

半種。Semispecies (独)
1). 上種を構成する異所性単系統
的のそれぞれの種で、亜種間に隔
離が到達して種の段階に達したば
かりであると思われ、種の特異性
の全部はまだ獲得していない集団
(Mayr, 1942)

2). 上種と亜種との中間に位する
分類階級 (Amadon, 1966).
cf. allopecies

Superspecies

上種。Superspecies, Über-
art (独)。単系統的な種の集まり
(かつては同一種の品種であったもの)
で、全くあるいはほとんど異所性の
分布を示し、形態的にははっきり異
なる。Renschのartenkreisに当
たる。(Mayr, 1931; Amadon, 1966)

Elementary species

基本種。elementarische
Art (独)。同種の他の集団から隔
離された遺伝子型をもつ集団。
= clone。突然変異により、もとの
種から突然分立、新生した種。
(de Vriesの種)。

Species

種。Art (独)。ラテン語の
specere = something looks
different より出る。分類学上のカ
テゴリーの一つ。Platoのイデア
(形相)の一つで、ideaの不完全な現
現。

Subspecies

亜種。Unterart (独)。

- 1). 一般には同一種に属する地理的
品種で、相互間の形態的差異がは
っきりしているものをいう。
- 2). 特殊な場合は地質学的に時
代を異にする同一血統内の変型をいう。
= waagenons, transients.
- 3). 命名規約上は種グループに属し。
種と同じ規約に従う。唯一の種以下
のカテゴリー。

Morphospecies

形態種。Morphospecies
(独)。形態的に他からはっきり区別
できるような種。morphological
speciesともいう。
= Mendelian species

Serospecies

血清種。血清学的差異に
基づく種。

Ultra-species

超種。異所性あるいは同
所性の近縁種の集まり。上種もこ
れに含まれる。(Kiriakoff, 1948)

Relic species

遺存種。relikt Art (独)
過去に栄えた種で、現在狭い地
域に残存しているもの。

Monotypic species

単型種。monotypische Art
(独)。形態的に等しい集団よりなる種、亜種
に分けられない種。cf. polytypic species

Polytypic species

多型種。polytypische Art (独)
多くの互にはっきり異なる地方的集団あり
は、亜種を含む種。

○ No.3に、ジグモの分岐型住居のこと掲載したところ、早速、佐々岡良三氏より、返事がありました。ジグモではないが、キノボリトゲグモで、分岐したり、曲ったりした住居を観察されたとのこと。早速の返事ありがとうございます。

なお、他の会員の方々のご協力もお願いいたします。

○ キンクガイバックナンバーを眺めくっていたら、クモの卵のうについていたカリオブシムシの幼虫のことがありました。これについても、お心当りのある方は是非文献等、ご紹介下さい。

○ 苦情(?) というほどではありませんが、一言。

宛名書きについてですが、萱嶋先生宛の気分の談話会への便りに、「萱嶋泉方東京蜘蛛談話会御中」というのがありました。日本では、やはり、萱嶋泉様方とするのが普通だと思いますので、談話会員は、普通のセンスの持ち主でいてよいと思います。外国には、敬称が特別な人を除いてはないようですが、日本では、やはり、様・先生・御中などを付けるのがよいと思います。

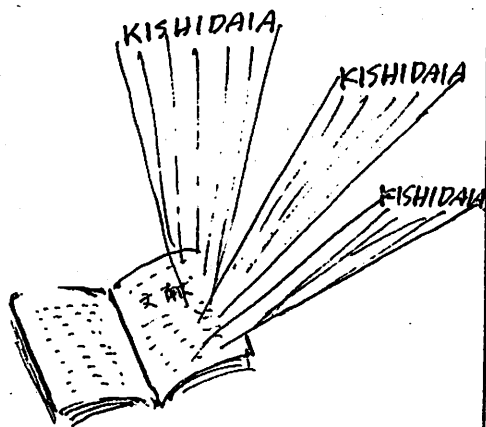
年寄りじみなおことを書きました失礼。(私本)

○ 3ページに紹介した、八村昭先生の著書の紹介・書評を、萱嶋先生が、昆虫と自然 Vol.10, No.2 (1971) の4ページに書いています。わかると思いますので、ご紹介して下さい。

○ KISHIDAIA No.39. 編集キとの由、小野展嗣氏より報告がありました。今度印刷所の都合(たかしらしいのですか)で、3月下旬か4月に入る頃でないと完成しようもありません。50ページを超える大きなものになりますので、読みどたえかあると存じます。ご期縛下さい。

○ とはいくものの、印刷代・郵送料は、あまりにも高くなり、一ぺんに会費をはまたしうです。いろいろかんはってみますので、宜しく。

○ 談話会通信のニフネーム、「又カンブーンメラカン」くらいにしようです。今後共、ご協力下さい。



東京蜘蛛談話会

本部：191. 日野市豊田1896

萱嶋泉方. 0425-81-7128

編集局：211. 川崎市中原区小杉町

1-540 小野展嗣方

044-722-2225

会局：187. 小平市学園東町

25-31. 本誌編集局

0423-42-0906